

一般講演・ポスター発表 P-12

「交雑問題」「ニホンイシガメ雄同士の交尾」

渡瀬英晃 (和亀保護の会)

Problem of hybridization and mating behavior among male Japanese pond turtle

Hideaki WATASE (*Society for the Conservation of Fresh Water Turtles of Japan*)

私は趣味で生き物の写真を撮っており、特に「カメ」は2009年から5年近く毎年撮り続けています。飽きずに続けている理由は、カメを撮影していると単純に心が和むこと、水中撮影などで試行錯誤しながらの撮影が楽しいこと、と思っています。さて、今回発表したポスターは「交雑問題」と「ニホンイシガメ雄同士の交尾」の2テーマを選びました。どちらも地元で撮影した写真を中心に簡単なコメントを入れた構成としています。発表要旨については、テーマを選んだ理由と補足説明をします。まず「交雑問題」を選んだ理由ですが、これから交雑種問題を考える上で、情報の一つとして活用していただこうと思い選びました。私が通う京都府の某河川はニホンイシガメとクサガメが混生しており、昔から交雑種を見ることができます。しかし、最近になって若い交雑個体の発見や追尾などの繁殖行動も観察したことで「知らない間に交雑が進んでいるのでは」と疑問を感じるようになりました。クサガメの外来種説も間違いなさそうなので、ニホンイシガメは「遺伝子汚染」といった問題に直面することになります。交雑種は両種の形態を併せ持っていますが、加えて特性も併せ持っていると思います。発表の中にクサガメの特徴が強く出た交雑の雄個体が冬季(12月)の追尾行動に参加しています(図1)。私の経験ではこの時期にクサガメを見ることは稀で、この個体は交雑によりニホンイシガメの持つ耐寒性を得たと推測しています。交雑により純血種には無かった特性が付加されるわけです。私はアマゴなどが生息する河川上流域でニホンイシガメの撮影をしていますが、ここではクサガメの姿を見ることはありません。クサガメが上流域の生活に適さないためだと思いますが、将来、上流域に進出可能な交雑個体が出現すればニホンイシガメの「聖域」は無くなることになります。私はクサガメとニホンイシガメが仲良く甲羅干りする姿が大好きですが、今後は複雑な気持ちでシャッターを押す事になりそうです。次に「ニホンイシガメ雄同士の交尾」を選んだ理由ですが、こちらは単に「自然下では珍しい事例」と思ったので選びました。撮影時の大まかな状況は下記となります。①雌一匹に雄一匹が求愛中 ②もう一匹の雄が割り込んできて、なぜが雄に交尾(図2)。③交尾終了後、今度は雌に交尾 ④交尾され



図1. ニホンイシガメの雌(左)の追尾行動をする交雑個体の雄(中央)



図2. ニホンイシガメ同士の交尾の様子

た雄はショックかその場で動かなくなる。⑤交尾された雄は他の雄につつかれたりして、動き出したのは約3時間後のことでした。写真は前半を水上から、後半を水中から撮影しました。雄同士が「交尾」に至った理由や動かなくなった雄をつつく行動は謎のままです。面白いと思ったのは「つづく行動」が「動かなくなった個体を動くように促している」ように見えたことです。私は「亀は人間臭い生き物だな」と思う時があります。写真を撮っている時の仕草などがそうですが、今回の観察でさらにその思いは強まりました。ホント見えて飽きない生き物です。なお、本報告は、和亀保護の会の年次報告書にも紹介されています。